

令和5年度 第4回 富塚小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年1月31日（水） 14時00分～15時00分
- 2 開催場所 富塚小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 秀俊、吉原 忍、萩原 孝英、小宮山 文博、久保田 智彦、
鈴木 佐知、笠原 大輔、平出 裕美子、水野 敦子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 門奈 保典（富塚協働センター）、小楠 佳子（地域代表）
- 6 学 校 村松 一彦（校長）、鈴木 彰一（教頭）、江間 慎一郎（教務主任）、
新田 久美子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 新田 久美子
- 9 議長の選出

司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木秀俊委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 学校運営協議会自己評価について
- (3) 来年度の学校運営の基本方針の説明
- (4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

11 会議記録

司会から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から、令和5年度学校関係者評価の結果と考察、改善案について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・いじめ対策について、いじめによって不登校になっている子はいるのか。（久保田委員）
→不安があって休むという子はいるが、いじめによる長期の不登校はない。（校長）
- ・子供たちは朝いつも元気よく挨拶をしてくれている。気持ちのよい挨拶の項目の評価が低いのはなぜなのか、不思議に思っている。（久保田委員）
→6年生の児童と話す中で、自分から先に挨拶をする「先取り挨拶」が富塚小学校の良い伝統だという話が出る。この先取り挨拶がまだできていないと感じて評価が低いのかも
しれない。（校長）

- ・資料に「粘り強く進んで学習に取り組む」という課題に対しての対策が書かれているが、これは誰に対応を求めているのか。保護者に求めているのか。（萩原委員）
→まずは授業の中で粘り強く学習を進められるような取り組みをしていく必要があると考えている。資料には学校が行う対応を書いている。（校長）
- ・気持ちのよい挨拶やきれいな言葉遣いというのは、学校教育よりも家庭や社会の影響が大きいと思う。先生方だけで対応していくのは難しいのではないか。（萩原委員）
→おっしゃる通りだが、学校でも今の言葉は良くないね、などと指導することはできるので、そのような対応をしていきたいと考えている。（校長）
- ・いじめにはどんなものがあるのか。どのように解決しているのか。取組中とはどのような状態なのか、具体的に教えてもらいたい。（鈴木佐知委員）
→前提として、本人がいじめられたと感じるといじめとみなされるので件数が多くなっているということがある。にらまれた、周りの子に無視された、靴を隠されたなどが具体的な例。取組中は3ヶ月以内に発生したもの。本人と教員へ、いじめがない状態となっていることを確認して、いじめ対策委員会で認定された場合に解消したとみなされる。（校長）
- ・勉強について、学校での学習の様子は子供から聞くしかなく子供が話してくれないと進度などの情報が分かりにくい。休んだ時の遅れをどのように取り戻すのか分からない。知る場面が少なく学校と、また保護者間でのコミュニケーションの取りづらさを感じている。（鈴木佐知委員）
→コミュニケーションの取りづらさはコロナの影響があると思う。子供同士のコミュニケーションについてはピア・サポートで学習しているが、保護者間というのは学校での対応はなかなか難しい。（校長）
- ・保護者の学習支援ボランティアでは、1年生の保護者は子供の学校での様子を見たいという方も多いため集まりがよく協力的。学年が上がるにつれて協力的な方とそうでない方に分かれてくる。ボランティアで来られる方は積極的に関わってくださる方が多いので、そういう方々の協力を得て保護者間のコミュニケーションを増やすことはできるかもしれない。（水野委員）
- ・いじめの件数が0になるのはなかなか難しいと思うので、起きたことが重大な事案につながるようこれからも対応を続けていって欲しい。挨拶やコミュニケーションの課題については、地域のイベントなどに参加していろいろな人と接することが大切だと思った。保護者も受け身ではなく積極的に活動することが必要である。（鈴木秀俊委員）
- ・全国学力調査のアンケートで「今住んでいる地域の行事に参加している」という項目の評価が低かった。この地域は協働センターのイベントなども多く、子供たちがよく参加していると思っていたので少し疑問に思っている。（校長）
→子供会の加入率の問題が影響しているかもしれない。子供会に加入していない子は子供会の行事に参加できないので、そう感じている子もいるのではないか。（久保田委員）
- ・自分が小さい頃のことを思い出すと、地域の人たちにいろいろ教えてもらったりしつけられたりしていた。時代が変わっているのも今それを求めるということではないが、子供会

の活動も縮小しているため、自治会でも子供たちが楽しい体験をできるようなことを探していきたい。（小宮山委員）

- ・子供会や地域のイベントは仕事の都合などで参加できないことが多いが、参加してみると子供がとても楽しそうにしているのでよい機会になっていると思う。なるべく参加するようにしたい。（鈴木佐知委員）
- ・うちの子供たちは地域のラッパ隊に入っていた。そこで地域の方々と交流する機会があった。大人や年上の人とコミュニケーションをとることが大事だと思う。挨拶はこの地域はよくできていると感じているが、他の方に聞くと子供たちがあまり挨拶をしないと言われる方もいるので、同じ富塚の中でも地域差があるのかもしれない。いじめについては、大きなことにならないようにこれからも対応して欲しい。（平出委員）
- ・いじめは加害者と被害者、それぞれの保護者で考え方や感じ方が違う。学校に入ってもらってうまく対応して欲しい。小学生のうちにきちんと対策しておくことが大事だと思う。（水野委員）
- ・いじめについては、学校がきちんと対応してくれていることが分かり安心した。挨拶や言葉遣いは、コロナが終わり通常に戻っていく中で変わっていくのではないかと思う。（笠原委員）
- ・いじめへの対応は組織で行ってもらい、担任の先生などが一人で抱えて悩むことがないようにして欲しい。自治会では夏休みと冬休みに勉強会を行った。これは子供会に入っている子も入っていない子も参加できるようにしている。これからもこのような機会を設けたいと思う。（久保田委員）
- ・子供たちのために地域で協力できることはどんどんしていきたい。（萩原委員）
- ・アンケートの「学校は安全で安心できる場所である」という項目の評価が高いが、これは一番大切なことである。地域、保護者を含めてみんなで続けていかなければならない。コミュニティ・スクールの保護者の認知度が低いことについて会長の立場として、77%を90%にするにはどうすればよいかをこれから考えていきたい。（吉原会長）
→現在学校では毎日ブログを更新している。その中にコミスクの行事などを随時載せているのでこのことを皆さんにお伝えしていきたい。（校長）

（2） 学校運営協議会自己評価について

議長の指示により、会長から、学校運営協議会自己評価について説明があった。

（3） 来年度の学校運営の基本方針の説明

時間の都合により今回は省略し、来年度の第1回学校運営協議会で説明することとなった。

（4） 夢育やらまいかCS加算分の報告

議長の指示により、教頭から、夢育やらまいかCS加算分について報告があった。

オブザーバーからは以下の発言があった。

- ・PTAや子供会の活動は大変だと感じることもあるかもしれないが、参加することによって人と人とのつながりが広がっていくので、前向きにとらえて参加して欲しい。富塚のよさを継続して行って欲しい。（小楠さん）
- ・学校評価アンケートで、学校は安心できる場所、困った時に相談にのってくれるなどの項目の評価が高いことはとても素晴らしいと思う。住んでいる地域の行事に参加しているという項目の評価が低いことについて、現在協働センターのイベントには多くの人に参加してくれているが、人が多すぎて不満に感じている人がいるかもしれない。少しずつ改善していきたいと考えている。（富塚協働センター 門奈さん）

報告

学校支援コーディネーターより活動報告があった。

- ・これから卒業式のコサージュ作りを行う予定。ボランティアを募集して4日間作業することになっている。他の学校ではなかなかないことなので、これからも継続していけるようコーディネーター3人で試行錯誤しながら進めている。
- ・今年度の授業支援については、担当の先生とよく打合せをするなどして昨年よりうまくできたのではないかと思う。

その他の報告事項

司会から、次回会議を令和6年4月18日（木）13時30分から富塚小学校会議室で開催する旨の報告があった。